

平成25年11月2日、3日に開催された第45回全日本空手道選手権大会で横浜北支部から出場した上田幹雄選手が7位に入賞。併せて新人賞、技能賞を獲得した。



今大会、上田は最も観客の注目を集めたといっても過言ではない。

初日の2試合をすべて一本、技ありで勝利し、圧倒的な攻撃力を見せつけた。だが、攻撃力以上に見るものを戦慄させたのは動きの速さ。

止まらないフットワーク、どんな間合いからも予備動作無く繰り出される攻撃、身長186cmとは思えないほどの動きで相手を圧倒した。

そして4回戦。上田にとって最大の山場を迎える。

対戦相手は森善十郎選手。

世界ウェイト制大会の中量級で2連覇を達成し、無差別の全日本大会でも準優勝の戦績を持つ優勝候補筆頭の選手だ。



初日の2試合を一本勝ちで圧倒的な強さを見せつけた森選手は絶好調。

日本のトップである森選手に、高校生である上田がどこまで通用するか注目が集まる。

試合が始まると森選手は落ち着いて上田の動きを見切ってから反撃をしようという構え。

百戦錬磨の森選手のペースに合わせては勝てる可能性は低い。上田は挑戦者らしく、序盤から果敢に攻めた。

慌てずに上田の動きにカウンターを合わせる森選手。

やはり森選手が一枚上手か？と思われたが、カウンターを狙うあまり、森選手の足が止まってガードが下がり気味になったところを上田は見逃さなかった。

突き技から繋げた渾身の上段膝蹴りがクリーンヒット。

すぐに立ち上がることのできない森選手を見て、審判は高々と旗を揚げた。

目の前で起きた大番狂わせに場内は騒然。

多くの観客の脳裏に上田幹雄という吊前を刻みこんだ。

次の準々決勝で世界ウェイト制大会軽量級王者の小沼選手に再延長戦の末に惜敗するが、高校生ながらトップ選手たちと激闘を繰り広げた上田に惜しみない拍手が送られた。

今大会、上田の応援に横浜北支部の多くの少年部が駆け付けた。

自分たちと年齢の近い上田の活躍は子供達の刺激になったに違いない。

これからの横浜北支部は上田を筆頭に若い選手達が活躍していくことになるだろう。



✕ 閉じる